

吉川も柿崎も酒イベント賑わう

4日、5日と頸北では酒イベントが続きました。

まずは4日です。柿崎区の頸城酒造で初めて蔵フェスが行われ、蔵の中も広場も大勢の人たちがお酒や食べ物を求めて集まりました。私は蔵の中を案内するグループに参加し、吉崎杜氏さんからコメ作り、酒造りについてわかりやすく説明していただきました。社長さんや蔵人のみなさんの造りへのこだわりがしっかりと伝わってくるイベントでした。建物は木造の「これぞ蔵」という感じでした。この日は、浄善寺での手しごと作品展も楽しませていただきました。

5日は第28回越後よしかお酒まつりでした。

午前の酒造り唄披露では、私の父親と酒造りで一緒に働いたという89歳の柳沢久さんもメンバーの一人で、元気に唄ってくださいました。感激でした。

午後からは地元のコミュニティバンド・ピアスのみなさんの演奏を楽しみました。歌の中では久しぶりに『コウノトリさん、ありがとね』の歌も聴くことができました。吉川では定着しつつある歌ですが、歌がはじまるとすぐに手拍子ができ、いい雰囲気でした。



コウノトリの親鳥ペアが95日ぶりに巣があった電柱に戻りました。この電柱はこのペアが2年連続で子育てをした場所です。今年6月にヒナ3羽が巣立ったあと、巣はパラパラと崩れ落ち、最後は丸裸になりました。コウノトリは同じ巣で何年もヒナを育てると言われています。頑張っているようです。

母ありてこそ



橋爪法一

「ばあちゃん、大丈夫かね」
「とちやか、オレ、死んだが」
「死んでなんかいいよ」
「脳梗塞か、助けてくれ」
「違者でな」より

私の最新エッセイ集です。母の晩年のことを中心に60篇を掲載しました。価格は税込みで1590円。ご希望の方は下の携帯までお知らせください。市内は配達します。

【シラネセンキュウ】
(再掲) セリ科の多年草。漢字で「白根川芎」と書きます。毎年楽しみにしている秋の花の1つです。この花の見事さは言葉では説明できません。初めて出会う人はみんな大感激します。花期は9月から11月で、白い花を咲かせます。花言葉は「永遠にあなたのもの」。写真は2日、大島区角間にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2223 2025.10.12

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八七〇回 小学生の発見

またしても地元小学校の子どもさんから教えてもらいました。吉川区でよく見かけるコウノトリについてです。

今月一日の夜、小学校四年生の保護者さんからメールが届いていました。そこには子どもさんであるTさんが今年度の科学研究で水路の生き物調査を行っていて、そこで「あらたな発見」があったことが記されていたのです。

「新たな発見」と書きましたが、Tさんは昨年、三年間続けた吉川区内におけるコウノトリの観察結果をまとめ、「コウノトリを春、夏、秋、冬の中で一番多く見かけたのは冬だった」というデータを地図（「コウノトリみつけたよ！マップ」）とともに発表していました。

この観察結果は、それまで五年間コウノトリの観察を続けてきた私にとって衝撃でした。コウノトリを冬に見かけることはあっても、それはたまたまで、冬もこの地にすみ続けているとは思っていなかったからです。

Tさんの観察結果を踏まえて、私は冬も意識的にコウノトリの観察をするようになりました。結果はTさんの観察通りでした。コウノトリは冬もずっといたのです。実際、コウノトリは昨年秋から巣の手直しを始め、本年の一月からは交尾を繰り返して、三月には産卵、抱卵をスタートさせました。

今回のTさんの生き物調査は、吉川中学校下の木の実谷交差点から小苗代に至る平和橋のたもとまでの水路で行われました。調査の結果、シジミ、ドジョウ、ヨシノボリ、アメリカザリガニ、モクズガニ、カワニナなどが用水にいて、予想以上に生き物が豊かだったことがわかったといえます。そして、こうした生き物が豊富な地域と昨年の「コウノトリみつけたよ！マップ」で赤い丸印を付けた「コウノトリがよく

飛来するお気に入りの田」とほぼ重なることが明らかになったのです。まさに「新たな発見」です。

私もコウノトリをよく見かける田んぼやその周辺にはコウノトリのエサとなる生き物がたくさんいるということを予想はしていましたが、実際に調べるところまではしていませんでした。それだけにタモまで使って生き物調査をしたTさんに大きな拍手を送りたいと思います。

偶然にも、Tさんの保護者さんからのメールが届いた日の朝、私は吉川中学校がよく見える下町の田んぼでコウノトリの親鳥夫婦の撮影をしていました。この撮影画像は、その日、中学校のコウノトリの特別授業で使いました。もう一日早くメールが届いていれば、田んぼの周辺、とくに水路にいるドジョウやヨシノボリ、シジミなどのことも話すことができたかも知れません。でも特別授業でコウノトリの話をしたことで、Tさんの家族に話が伝わり、それがメールにつながったかも……。

Tさんの調査のなかでは、他にも注目したことがあります。水路にいた生き物の一つにヨシノボリがいたとあったのです。Tさんの写真を見たら、子どものころ、村屋の川で捕まえたことがあるカジカにそっくりでした。

さっそくインターネットでヨシノボリとカジカの違いを調べました。説明には、「顔に赤い線模様があるならヨシノボリ」「垂直、傾斜面などで上下左右、あらゆる方向で静止できるかどうか。できるならヨシノボリ」などと書かれていました。

なるほどと思いました。でもこうした記事だけではヨシノボリとカジカの違いを充分理解できません。Tさんの影響を受けたのでしょうか、実際の姿をこの目で確かめたくなったのです。私はいま七五歳、なぜかまたワクワクしてきました。

高田の夜の街オリエンテリングへ

3日の夜は高田にて夜の街オリエンテリングでした。150人ほどが参加しました。私のこのイベントへの参加は数年ぶりでした。

このイベントは、仲町などのお店3つをまわって飲食を楽しみ、お店のリピーターになってもらうという企画です。

私は車でいったので、アルコールなしでしたが、中学校時代の同級生や昔の仲間などと出会えて、楽しい時間となりました。それだけでなく、私の知らない人からも「橋爪さんですね」と声をかけていただき、交流しました。お店もそうだと思いますが、このように新たな交流もできて、つながりも広がります。

最初に行ったお店では、8人のお客さんのうち7人が吉川区在住の人たちでした。すでに他のお店で飲んで

た人もいました。吉川の人たちが大勢集まれば、話題はコウノトリ一色となります。素敵なイベントでした。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月1日(水)	10月8日(水)
上越消防署	0.050	0.053
上越南消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.053	0.053
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.036	0.053
名立分遣所	0.050	0.060
高士分遣所	0.053	0.057